2003年　6月10日発行

点訳通信

５２号

盲人情報文化センター　点字製作係
550-0002 大阪市西区江戸堀 1-13-2
TEL 06-6441-0015　FAX 06-6441-0039

ぼくはびっくりした

おとなは
こんなことに
びっくりするなんて
びっくりした

おとなは
こんなことにも
びっくりしないなんて
びっくりした

おとなは　ぼくと
ずいぶんちがうんだなあ

秋川ゆみ

お知らせ　新人紹介

点訳講習会修了おめでとうございます。新たに９名の仲間が点訳活動に参加されます。

いつもこの時期になると思い出す事があります。
「〇〇に行く用事ができたの。そのついでに近くを観光してこようと思っているの」「〇〇地方のガイドブックない！？」。その利用者の声ははずんでいました。最近でこそ障害者対象の旅行企画も増え、多くの方が旅を楽しんでおられます。しかし、自分で計画を立てるとなれば大変です。希望の場所を決め、手引きの人を頼まなければなりません。その大変なことにあえて挑戦されようとしているのです。

書店にはカラー刷りの旅心をかき立てる楽しそうなガイドブックが山積みされています。グルメツアー、温泉三昧、ハイキング、豪華な旅館、海外旅行‥‥、あらゆるニーズに応えるべく豊富な図書が用意され、どの本を買おうかと迷うほどです。旅ほど個性的なものはありません。日常から解放された非日常性。家庭では味わえない開放感。爽やかな風、清流に悠々と泳ぐ魚、輝く太陽、目にあざやかな新緑、波の音、どれをとっても心を癒し明日への活力につなげてくれます。
鮮やかなカラー写真を点字で表現できないのは残念ですが、それ以上に問題なのは点訳された図書が極端に少ないことです。残念なことに当図書館には該当の蔵書はありませんでした。早速他館を検索したのですが点字図書では見つかりませんでした。何とか録音図書は見つかったのですが、何と１０年以上前の図書でした。

十年一昔と言いますが、テンポの速い現在では二昔にも、三昔にもなります。古いガイドブックで大阪を訪れた人は、無残に焼けた法善寺横丁を見てびっくりする事でしょうし、また、ユニバーサル・スタジオも行けず後で悔しい思いをするでしょう。
小さくなってその図書を貸し出しました。せっかくの楽しいはずの旅行はどうなったのか、恐くて聞くことができませんでした。この悔しい思いを２度と利用者に味わわせたくないそんな思いでいっぱいです。

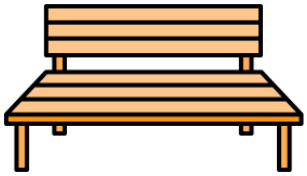
しかし、スタッフだけが頑張っても解決することができません。皆様のご協力が必要です。図書館の質とは単にマスあけだけの問題ではなく、量と早さも考慮されなければなりません。私たちが１ヶ月かかって利用者に提供できる資料は約２０タイトル。わずかな図書の中から自分の興味のあるものを見つけ出さなければなりません。多彩な利用者に対して２０タイトルでは少なすぎます。今年度はせめて１．５倍に増やしたいと思っています。製作期間を少し早めて頂くだけでクリアできる数字です。ぜひご協力お願いします。特殊な図書以外は最長が「６ヶ月」をめどにお願いします。

新しい仲間をご紹介させていただくにあたって、情報提供の難しさをかみしめているところです。

点訳講習会を終えて

筒井　祥子

この度、点訳講習会を無事修了し、お世話になった皆様には大変感謝しております。仕事上、点訳の知識も必要だなと思い、この点訳講習会にチャレンジしましたが、かなり悪戦苦闘いたしました。漢字が読めなくて辞書を引いたり、物覚えの悪くなった脳みそにむちうってテスト勉強したり、なれないパソコンに手を焼いたりしながら、しかし久々に学生時代に戻ったような感じで、それもまた楽しかったなと思っております。



今はまだ、点字・点訳の世界の入口に立ったばかりで、行く先ははるか遠すぎてまだ見えない状態ですが、すこしずつマイペースで勉強していきたいと思っています。

「点訳と私」

細見　康子

私が点訳を学びたいと一念発起したのは、Ａ新聞の投稿文を目にしたからです。その中で楽譜点訳という活動を知り、早速、投稿者に連絡をとりました。そして、ライトハウスで行われる講習会に参加したのです。まず、点訳を学習してから楽譜点訳に進むとの事。ただ、楽譜点訳で社会参加しよう。その思いだけで受講しましたが、無謀というより無知でした。毎回、授業について行くのに必死の上、先生方から点訳者としてどうあるべきか、心がまえを聞いた時、自己満足をしている自分に気付きました。

「してあげる」のではなく、相手の方が何を求めているのかを考え行動する。その大切さをいつも教えて頂きました。点字板、パソコンと仲間達はなんなく理解できるのに私は？と不安でいっぱいでした。壊れそうな気持ちを奮いたたせながらの毎日でしたが、そんな時仲間には、ずい分助けて頂きました。

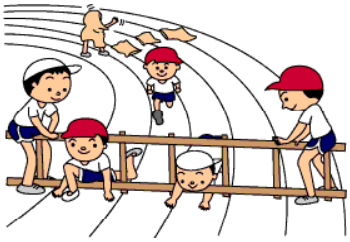
宿題のチェック、質問、パソコン操作等、遅れている分を毎回御世話になりました。本当にありがとうございます。こんなに集中した事は何十年振りでしょう。あっという間の半年でしたが、終了した今、安堵と不安が交互に押し寄せています。点訳という未知の世界のスタートラインに立ったばかりで、次は楽譜点訳という大きな目標があります。でも、先生方や仲間の姿を見失わぬよう、迷わぬよう、しっかり後をついていきたいと思います。そして、十年後、二十年後も点訳を学びながら生活できれば真の社会参加だといえるのでしょう。頑張れ！と自分を励ましています。皆さん、これからも宜しく御願いいたします。

難関をクリアして

小久保　章代

パソコン点訳に憧れて、点訳技術講習会に参加させていただくのに私には、２回の難関をクリアしなければなりませんでした。１回目は、講習会参加への漢字テストです。この漢字テストでは、改めて、日本語の持つ奥深い意味と、母国語の美しさを感じさせられました。

２回目は、パソコン点訳に入る前の、前期コース試験です。特に点訳の誤りを見つける問題については、分かち書きで、切るのか、続けるのかの迷い、助詞・助動詞・動詞・形容詞・形容動詞の活用や、又、点の位置の大切さを感じました。点字って１点違いで大違い、全く読めない点字になってしまいます。



そして、やっとパソコン点訳の講座に入ったのですが、操作になれなくて、便利な機能を使いこなせない自分が情けないです。

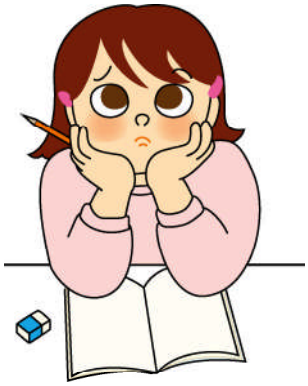
だけど、本当に簡単に修正ができるので、点字板で打つより楽です。が、反面、手軽に修正ができるという甘えがあり、慎重さに欠けてきました。駄目ですねぇ～。早く操作に慣れて、便利な機能が使いこなせることが、できるようになりたいと思っております。フォローアップ研修で、またまた、先生方にはご迷惑をおかけ致しますが、今後ともどうぞよろしくお願いします。

点訳講習会を終えて

小原　千賀子

私が点字を習おうと思ったのは、去年の６月の終わりごろです。茨木市に住んでいるので、地元で点訳講座をやっている窓口の茨木市立中央図書館に問い合わせると、秋からの講座はなくて４月に始まる、ということでしたので、待ちきれない私は、10月から始まる盲人情報文化センターの講習を受けることにしました。

最初に真白い点字用紙を、木製の点字板にきちんと合わせて端を折るとき、「ここから始まるんだなぁ」と新鮮な気持ちになりました。前半は点字板を使って短い文を打ったり、マスアケの練習、点字を表から読む練習でした。年が明けて１月からは、いよいよパソコンを使っての授業で、機械操作に弱い私は点字どころではなくなりました。「読み方調べ」や「ないーぶネット」の授業はとてもおもしろかったです。私はまだ、キーボードからの点字入力にはあまり慣れていません。前期・後期ともに盛りだくさんの内容でしたが古谷先生、若林先生の息の合った御指導のおかげで、なんとか修了証をいただくことができました。まだ授業を消化しきれていないのですが、４月からまた新しい気持ちでスタートしたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



正確な点訳をめざして

池田　千晶

　ずっとやってみたかった点訳を実現できてうれしいです。
正直言って、点訳というものが　これほど難しいとは思っていませんでした。読書が好きで、読み方を調べたりして、読むことができれば点字に置きかえるだけだともっと簡単に考えていました。
　講習を受けて点訳（日本語）は、なんて複雑なんだ！　とつくづく感じました。

　今回の講習では、点字板とパソコンの両方を教えていただきました。これは、自分にとって、とてもラッキーだったと思います。点字板では１字１字間違わずに打つことのたいへんさとパソコンの便利さ。点字板での作業を少しでも知っているのと、知らずにパソコン点訳を始めるのでは意識の上でぜんぜん違うと思うのです。
　「いつでも修正できるから」と安心せず、常に正確な点訳ができるよう、がんばっていこうと思います。ありがとうございました。

気長に　じっくりと

喜多　冨佐子

　以前に少し点字を習った事がありましたので、講習会が始まった頃は、十分ついてゆけると思っていたのですが、授業が進むにつれて、だんだん「落ちこぼれでは」と心配になっていました。でも４月からも講習を続けて下さる事になり、また頑張る気持ちになっています。

　今回の講習会では点訳の基礎を習ったという段階だと思い、これからが本当の勉強なのだと、新たな文章に出会う毎に新たな知識を習得できるのを楽しみに、焦らず、気長に学んでゆきたいと思います。出来の悪い生徒でしたが講師の先生方には、懇切丁寧なご指導を賜りました事、本当にありがとうございました。
　今後共、どうぞ宜しくご指導下さいますようお願い致します。

奥深いものを垣間見た

山本　喜美江

“点訳”が如何に奥の深いものかを垣間見た講座でした。講師の先生方の熱心な授業は転寝をする暇も与えない密度の濃いものでした。「私は親切だから・・・」と仰って毎回たくさん宿題が出され、皆フーフーしながら授業についていった半年でしたが、今年このクラスを受講できて本当に感謝しています。

　ほかに、田中慶彦さん、松田和代さんがおられます。皆様のご活躍を期待しています。

お知らせ　曜日担当者　両面印刷　校正

曜日担当者の皆様を紹介させていただきます。

火曜日　　国本詔子　笹川雅子　若林安也子
水曜日　　鴻農高子　福元悦子
木曜日　　磯村一恵　大深節子　奥村純子
金曜日　　古財芳子　都解節子　宗像真李子　村井真知子

です、引き続きお願いする方、新たに加わっていただいた方、今後ともよろしくお願いします。

１８行、両面印刷について・・・

前回１８行両面印刷に切り替えていきたいと説明しましたが、その中で１５０～１８０ページぐらいをめどに編集して下さいと説明しました。しかし、実際に製本するとかなり厚いものとなりました。そこで、ページ数は

１３０ページ前後

に変更して下さい。現在試行錯誤の状態でもあり、また、別の製本方法など検討していますのでこのページ数は再度変わるかもしれませんが、しばらくは編集ページ数のめどと考えて下さい。

校正について・・・

長年、活動を続けていただいていると、生活の変化に伴い活動日の変更を余儀なくされることがあるかと思います。火曜日から金曜日まではいつ来ていただいても校正のできる体制が整っています。都合の良い曜日に変更していただいて大丈夫です。

また、「少し時間の余裕ができた」「校正がたまってきた」など必要に応じて来館して下さい。特に点訳活動で時間のかかるのは校正です。時間に余裕があれば複数の曜日に参加していただいても、単発的に来ていただいても結構です。ただ、土曜日は人数が少なく、除外させていただきます。

お知らせ　「なくなる」

「なくなる」のマス空けについて

昨年末の２校者の集まりで、「なくなる」のマス空けについて点訳者によりばらつきがあるとの指摘がありました。

これまでは、意味を考えて「消滅する」「無くなる」「失せる」と言い換えることができるとき、続けていました。しかし、意味によるマス空けの判断は時には難しいことがあり、また解釈の違いもありえます。

今回は、できるだけ形式から判断できる基準を考えてみました。結果的には、意味から判断した場合と大差はありません。

※　品詞分類については、『大辞林』と『広辞苑』を使いました。

１．続ける場合

「…が（は、も）なくなる」のように「なくなる」が主語に対する述語の関係にある場合

【例】　金がなくなる［カネガ◇ナクナル］
金を借りる必要がなくなる［カネヲ◇カリル◇ヒツヨーガ◇ナクナル］
もうめったに会うことはなくなった
［モー◇メッタニ◇アウ◇コトワ◇ナクナッタ］
出かける必要もなくなった［デカケル◇ヒツヨーモ◇ナクナッタ］
君と僕とは関係なくなった［関係＝関係が］
［キミト◇ボクトワ◇カンケイ◇ナクナッタ］
元気がなくなってしまった［ゲンキガ◇ナクナッテ◇シマッタ］
元気さえなくなった［ゲンキサエ◇ナクナッタ］
どうしようもなくなった［ドー◇シヨーモ◇ナクナッタ］
元も子もなくなる［モトモ◇コモ◇ナクナル］
アメリカとの違いはなくなった［アメリカトノ◇チガイワ◇ナクナッタ］

《補足》
「あまり、ほとんど、まったく、すこしも、いくらも」などのような、後に否定的な表現を誘導する副詞は、「なくなる」のマス空けには影響しないこととする。

【例】　お金がほとんどなくなった［オカネガ◇ホトンド◇ナクナッタ］
風邪であまり元気がなくなった［カゼデ◇アマリ◇ゲンキガ◇ナクナッタ］
それ以来彼女と会うことはまったくなくなった
［ソレ◇イライ◇カノジョト◇アウ◇コトワ◇マッタク◇ナクナッタ］

２．マス空けする場合

１以外の場合（主語・述語の関係にない場合）
以下これに該当する【例】を示します。

(1) 「…くなくなる」形容詞（形容詞型の変化をする助動詞「たい」もふくむ）の連用形に続く場合

【例】　寒くなくなる［サムク◇ナク◇ナル］
　　会いたくなくなる［アイタク◇ナク◇ナル］
【類例】　寒くはなくなる［サムクワ◇ナク◇ナル］
　　食べたくもなくなる［タベタクモ◇ナク◇ナル］

(2) 「…でなくなる」

【例】　必要でなくなる［ヒツヨーデ◇ナク◇ナル］
　　元気でなくなる［ゲンキデ◇ナク◇ナル］
　　丈夫でなくなる［ジョーブデ◇ナク◇ナル］
【類例】　必要ではなくなる［ヒツヨーデワ◇ナク◇ナル］
　　丈夫でもなくなる［ジョーブデモ◇ナク◇ナル］
　　省エネは必要なくなりました［必要＝必要で］
　　［ショーエネワ◇ヒツヨー◇ナク◇ナリマシタ］

(3) 「…するしか（ほか、よりほか）なくなる」

【例】　歩くしかなくなった［アルクシカ◇ナク◇ナッタ］
　　そうするほかなくなった［ソー◇スル◇ホカ◇ナク◇ナッタ］
　　逃げるよりほかなくなる［ニゲルヨリ◇ホカ◇ナク◇ナル］

(4) 「…そうになくなる」

【例】　雨が降りそうになくなる［アメガ◇フリソーニ◇ナク◇ナル］
【類例】　降りそうにはなくなる［フリソーニワ◇ナク◇ナル］

(5) 「…ない」で終わる形容詞が変化した場合

【例】　しかたなくなる［シカタナク◇ナル］
　　心置きなくなる［ココロオキナク◇ナル］
　　申し訳なくなる［モーシワケ◇ナク◇ナル］

(6) その他

【例】　気分はもうなんでもなくなった［キブンワ◇モー◇ナンデモ◇ナク◇ナッタ］
　　なんともなくなる［ナントモ◇ナク◇ナル］